

漁業資源の今とこれから

日時・場所：平成28年3月30日（水） 13：00－16：30 東京海洋大学品川キャンパス

企画責任者：市野川桃子・岡村 寛（水研セ中央水研）

13:00－13:10 開会の挨拶・企画の趣旨説明 岡村 寛（水研セ中央水研）

座長：田中寛繁

13:10－13:35 1. 乱獲の現状―世界から見た日本の姿―

市野川桃子（水研セ中央水研）

13:35－14:00 2. 気候と漁業―我が国資源のレジームシフト―

黒田啓行（水研セ西海区水研）

14:00－14:25 3. 経済乱獲―利益を高める方法あれこれ―

檜山義明（水研セ日水研）

14:25－14:35 休憩

座長：黒田啓行

14:35－15:00 4. 底びき網が生態系に与える影響―海外における影響評価の取り組みについて―

田中寛繁（水研セ北水研）

15:00－15:25 5. 漁業が生態系に与える影響―単一種管理と生態系管理の違い―

岡村 寛（水研セ中央水研）

15:35－16:30 パネルディスカッション「日本の漁業資源をどう評価・管理していくか？」

パネリスト：平松一彦（東大大気海洋研）

吉田丈人（東大院総合文化）

河内直子（NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト）

司会：市野川桃子（水研セ中央水研）

企画の趣旨

世界の漁業資源は危機に瀕しているのか？世界的な水産資源学者であるヒルボーン教授は、その研究成果を一般向けの著書「乱獲―漁業資源の今とこれから―（原題: Overfishing）」にまとめた。本シンポジウムは本書で語られている科学的な内容を概説した後、それぞれのトピックに関連する日本での最新の研究成果を紹介する。演者は、実際に資源評価・管理研究に携わり、漁業データを活

用している水研センターの若手研究者を主とし、パネリストとして大学やNPO法人から有識者を迎えた。総合討論では、「乱獲」で語られているトピックと講演内容をもとに広く議論をおこなう。特に、漁業データを日本の資源評価研究や実際の管理にどのように活かしていけばよいかを議論の中心とする。